

統合国際深海掘削計画（IODP）会議報告書

提出年月日： 平成24年 1月27日

氏名：川幡徳高，石渡 明，井龍康文，林田 明，山本啓之

所属（職名）：東京大学（教授），東北大学（教授），名古屋大学（教授），同志社大学（教授），JAMSTEC
（技術研究主幹）

会議名	IODP（統合国際深海掘削計画），SIPCom 会議
期間	平成24年 1月19日 ～ 平成24年 1月20日
用務地（国・都市）	インド国，ゴア市
目的	SIPCom 会議出席

会議内容及び報告事項（主に会議での決定・合意事項等について記載してください）

※字数・ページ制限はありませんので、適宜ページを追加してください。

- 1) 2013 以降の IODP のフレームワークにおいて、全体の傘である IODP Forum は、SIPCom, IODP Council および IWG+などが行う重要な機能を結びつける働きを担う予定である。従って、IODP Forum とその議長は、その任務に値するサポートが与えられることが重要である。SIPCom は、以下のことを再度主張したい。
(a) 議長の報酬が議長を輩出する国あるいはコンソーシアムより支出されること、(b) IODP Forum 会議のための後方支援が IODP Support Office により準備されること。
- 2) SIPCom は、18 日の IWG+で決まった新しいIODP(International Ocean Discovery Program)のフレームワークと 2013 年以降の SIPCom の仕事の引き継ぎ事項について議論した。多くの質問と示唆があり、それらは、SIPCom 会議の議事録に記載された。これは IWG+が上記2つの書類を改訂する時に役立つと期待される。
- 3) 前述した「今後のフレームワーク」や「SIPCom の仕事の引き継ぎ」に基づき、IODP Forum や FGBs に、国際 community から科学者を代表として出すよう、強くお願いしたい。各々の FGBs の議長は、国際的な科学者コミュニティーから選ばれるべきである。換言すると、Funding agency, 掘削船を運行する組織に属するものであってはならない。
- 4) OTFとSIPComの間の相互作用は、SIPCom議長がOTFの会議などに出席する(運用的には逆でもよい)ことで保たれると考えられる。SIPComとCMO/funding agenciesとの相互作用は、通常のE-mail会議、E-mailによる情報伝達、付随的な会議、SIPComの議事録などを通じて行われる。
- 5) SIPCom は、funding agencies と IODP-MI に対し、議事録を通じて、あるいは、議長と通常の意味疎通により報告を行う。
- 6) SIPCom は新しい SAS の体制について基本的に合意した。但し、副次的事項と不備な点については考えを留保する。さらに、OTF によって作られる年間運行計画の是認については、次年度の予算の最終月の 18 月前のデッドラインである毎年 3 月にメールベース会議で扱うこととする。また、SIPCom は IODP-MI, IODP Council, funding agencies, IWG+に対してこのことを報告する。IODP-MI は、最終的な SIPCom の是認にむけて、書類を準備して、配布する予定である。
- 7) SIPCom は HCL(ハンスクリスチャン・ラーセン副代表) が述べた SAS 会議と Proposal 提出の締め切りについて十分理解した。
- 8) SIPCom は、J-FAST の航海の出費や ECORD が撤回した 945kUSD などの削減などの事項を含む FY12 APP の最新バージョン予算について議論した。
- 9) SIPCom は、FY13 の IODP-MI の予算案を評価するサブ委員会を作るが、その議長には Keir Becker が、支援として Javier Escartin と Yasufumi Iryu が就任して、6月の SIPCom で報告する。
- 10) SIPCom が認識するところによると、プロポーザルが沢山でてくるかどうか、ということは、IODP の Science Plan の実行が成功するか、否かに決定的な因子となる。これは、短期的・長期的な掘削船の航海に関して、効率のよいスケジュールをたてられるか、どうかにも関係する。長期のプランをよりうまく達成するためには SIPCom は、IODP-MI が「regional workshop proposal」を提案するように呼びかけることを願う。これらのワークショップの最終目的は、科学 community に高いレベルの提案をしてもらうことを促すものである。

SIPCom では、プロポーザルのストックを多くする手だてについて議論された。採択されたプロポーザルが多くなれば、航海の効率を最大にすることもできるし、移動の時間を最小にすることもできる。

11) ワークショップ提案“Southwest Pacific Ocean”について、SIPCom は高く評価し、資金の提供を強く勧めることとなった。なぜなら、この海域は重要であるし、この種のワークショップは今後の IODP での提案発掘のよい例となると考えられるからである。

12) ワークショップ提案“Observatories in Scientific Ocean Drilling”について、SIPCom は評価して、資金をだすことを認めるが、その資金は海外の参加者のための旅費として用いることを条件とする。

13) ワークショップ提案“Ultra Deep Drilling Into Arc Crust”への資金提供については、PEP において、非常に類似した科学提案がされているのに鑑み、SIPCom は断ることとなった。提案が、リスク評価も含めて、より技術的な側面に絞ったようなワークショップに改変することを推薦する。

14) ワークショップ提案“Mediterranean Sea Drilling Project”への資金提供については、SIPCom は断ることとなった。SIPCom はこの掘削の技術的側面について、ひき続き懸念を抱いている。2400m の海底水深で、3km の岩塩層を含む 7km のライザーホールを予定しているからである。

15) SIPCom は PEP に、現在 PEP と OTF にプールされている。pre-proposals, proposals, CPPs および APLs について、科学的と地域的な分布から概要をまとめるように要請する。この資料に基づき、2012 年 6 月の SIPCom 会議で 2013 年以降の IODP Science Plan について、将来の実行などについて評価する予定である。

16) 長期間の JR (post FY14) の運行に関し、西太平洋での掘削航海の後、OTF レベルで是認された掘削提案が現状では少ないと認識している。換言すると、このレベルでのストックが増加することを期待する。そうしないと、科学的な実りを大きくして、航海を効率的そして円滑に進めることは難しくなる。最近の“Indian Ocean ワークショップ”と近々に予定されている“SW-Pacific ワークショップ”などを通じて、これらの地域での掘削ターゲットが増加することを期待する。南大西洋、南極海、インド洋について、特に JR の長期の予定ルートとなっている海域については、SIPCom は、掘削プロジェクトやワークショップの開催などを通じて、将来科学提案が増加してほしいと願っている。

17) 今回の SIPCom 会議の全参加者はハンスクリスチャン・ラーセンの IODP-MI 退任に当たり、彼の長年の顕著な貢献に対して感謝と称賛の意を表明した。

備考	
----	--

事務局又は J-DESC へのご要望・コメント等
